

E 国 語 問 題

注 意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒芯のシャープペンシルで記入することになっています。
黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は一～三となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷ついたりしないように注意してください。
- 六 この問題冊子は持ち帰ってください。
- 七

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のように黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきれずに取り除いてください。

マーク例

①	
○	1
○	2
●	3
○	4
○	5

(3と解答する場合)

※

大問一・二については著作権の関係により掲載できません。
引用した文章は次の通りです。

- ・大問一 塩川伸明『民族とネーション——ナショナリズムという難問』
- ・大問二 アダム・タカハシ『読書会のススメ』

三 左の文章は江戸時代の歌論書『八雲のしをり』の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

「嵐もしろき春の曙」夕日をあらふ沖つしら波「うつるもくもる朧月夜に」などいふ類の秀句はとるまじきよしなり。これはたことわりなきにあらず。かかる詞はその上の眼目なれば、それをとる時は、その意を盗むになるなり。かかれば制の詞とて止められたるは、いみじきことになむ。⁽²⁾

「ほのぼのと」見わたせば」などいふ詞の類は、初句におくまじきよしなり。そは「ほのぼのと」見わたせば」など打出でたらむに、柿本の大夫・素性ひじりなどにまさりたらむはいみじからめど、おとりたらむは、ものぞこなひなるべければ、よむまじとにはあらねど、はれの時には心すべきなり。⁽⁴⁾

四十にならぬ人は老といふことをばよむべからずと、昔よりいひふるしためり。それ題を設けてよむ歌は、もと虚言なれば若きものの老といはむ、何か苦しからむ。ことに恋の歌には、男の女になり、女の男になりてよむ事常の事なり。また恋歌ならでも、貴人の土民になり、土民の貴人になり、法師の漁人になり、尼の狩師になりなど、その例挙げてかぞへがたし。また万葉には、琴にもなり、蟹・鹿等にもなり、古今には、牽牛・織女にもなりて詠める歌もあり。かかれば若きも老となり、老も若きになりなど、互ひに通はしよまむ、なでふことかあらむ。⁽⁵⁾

恋の歌に待つといふは女なり。通ふ心によむは男なり。古への夫婦のさま、女は親の方にあるを、男の方より通へるなり。⁽⁶⁾ たまたま女を男の方に迎へとれるもあれど、それも別所に置きて、なほ男の方より通ひしなり。今も貴人は、別所に北の方をすませて、男君の方より通ひたまふなり。これ古への風のなごりなるべし。

人に物を贈るに、今は他よりもらひしにいいひなすなり。そはその物のすぐれなき、あるはその物のあしきなどを恥ぢてするわざにて、人に罪おはするはらぐろなりけり。⁽⁷⁾ 古への人は、その物あしくその物すくなくとも、自らてづから辛苦して求め出でたるよしにいひしなり。古今に、仁和のみかど人に若菜たまひける時の御歌⁽⁸⁾

(9) 君がため春の野に出でて若菜つむ我衣手に雪は降りつとみゆるにて心得べし。

地名を名所と心得たる人あり。地名はたとひ古事記・日本紀等に見えたりとも、名所とはいふべからず。古へより歌にもよみ、花・紅葉・月・雪等につきて、聞え高き所をこそ名所とはいふべけれ。されば題詠には名所の外はよむべからず。⁽¹¹⁾ 实景には名所もただのもくるしからず。

(注) 1 制の詞——歌学で禁止された詠歌上の表現。

2 柿本大夫・素性ひじり——柿本人麻呂と素性法師。それぞれ「ほのぼのと」「見わたせば」から始まる名歌を詠んだ歌人としても有名であった。

3 万葉——『万葉集』。

4 古今——『古今和歌集』。

5 仁和のみかど——光孝天皇。

6 日本紀——『日本書紀』。

問

(A) ——線部(1)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 序詞を用いた秀逸な和歌の組み立て
- 2 上の句を構成する主要な約束事
- 3 高貴な人にだけ許された視点の置き方
- 4 昔の名歌のもつとも肝心な部分
- 5 上級者向けの複雑な和歌の詠み方

(B) — 線部(2)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 とても巧みな詠み方であった。
- 2 きわめて良い判断であった。
- 3 ひどく愚かなふるまいであった。
- 4 たいそうみっともない作品であった。
- 5 非常に分不相応なことであった。

(C) — 線部(3)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 興ざめ
- 2 心残り
- 3 無神経
- 4 損失
- 5 幼稚

(D) — 線部(4)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 決して詠んではいけないというのはもちろんとして
- 2 そもそも詠んでよいといった状況ではないのに
- 3 まさか詠むというようなことはないであろうが
- 4 努力すれば詠めないということではないものの
- 5 絶対に詠んではいけないということではないけれど

(E) — 線部の文法的説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 「いひふるし」は動詞、「た」は完了・存続の助動詞、「めり」は推定の助動詞。
- 2 「いひふるし」は動詞、「た」は断定の助動詞、「めり」は推定の助動詞。

3 「いひ」は名詞、「ふるし」は形容詞、「た」は完了・存続の助動詞、「めり」は推量の助動詞。

4 「いひふる」は動詞、「し」は過去の助動詞、「ため」は動詞、「り」は完了・存続の助動詞。

5 「いひふる」は動詞、「し」は動詞、「た」は断定の助動詞、「めり」は推量の助動詞。

(F) 線部(5)について。なぜそう言えるのか。その理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 恋愛はどのような間柄でも可能だから。

2 奇をてらうより先に身に付けるものがあるから。

3 何があっても年齢が入れ替わることはあり得ないから。

4 古来人間ではない物に仮託した歌すらあるから。

5 老人を冒瀆することだけは許されないから。

(G) 線部(6)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 もしかしたら

2 偶然

3 まれに

4 ある時には

5 かえって

(H) 線部(7)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 他人に粗悪品を押し付けようとする悪たくみ

2 他人に責任を押し付けようとする性根の悪さ

3 他人に仏教の戒律を破らせるがしこさ

4 他人がお持ちになっている意地汚い心

5 他人が最後まで責任をお取りになるべき失敗作

(I) ——— 線部(8)の現代語訳を七字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(J) ——— 線部(9)の和歌は本文の中でどのような役割を果たしているか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 かつて高貴な人物が贈り物をする際に、家臣に入手させた物であっても自分で入手したことになっていたことを示す例になっている。

2 かつて贈り物に和歌を添える際、敢えて低い身分を装って詠むことで大した物ではないと謙遜する風習があったことの例になっている。

3 かつては贈り物をする際に、相手のためにできるだけ良い物を選んだことを詠む和歌が添えられていたことを伝える例になっている。

4 昔の人が贈り物をする際に、ささやかな物であっても自ら苦労して手に入れた品であることを相手にことさら示していた例になっている。

5 昔の人が秀でた恋の歌を詠むためには、贈り物を入手した自らの成果を誇張しなければならなかったことが分かる例になっている。

(K) ——— 線部(10)について。筆者はどのような場所を「名所」としているか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 古くから書物の中に記されてきた有名な場所

2 昔から歌に詠まれてきた有名な景物がある場所

3 四季を象徴する典型的な景物が複数ある有名な場所

4 かつては有名な景物があったことで知られる場所

5 歌の題として設定されるべき有名な場所

(L) ——— 線部(11)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 実際の風景としては歌に詠むべきである名所もそれ以外も大して変わらないのだよ。
- 2 実際の風景には花や紅葉などが無かったとしても名所を詠む際には気にしなくてよい。
- 3 実際に風景を見て詠んだ歌は行ったこともない名所をただ詠むより感動的になるものだ。
- 4 実際の風景を目にしたならば名所であろうがなかろうが詠むのが風流というものだ。
- 5 実際の風景であれば名所であっても普通の場合所であっても問題なく詠んでよい。

(M) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ 公の場で歌を詠む際には、特に慎重な語句選択の判断が求められる。
- ロ 古くから身分や立場を超えた恋愛が多く詠まれてきた。
- ハ 今でも一部の人は別居した上で通い婚をしている。
- ニ 贈り物をするときには、他人からもらった品であるかのように詠んだ和歌を添えるべきだ。
- ホ 『古事記』や『日本書紀』に出てくる地名には名所は存在しない。